



サイジャーナル

月刊
3-5-6
第457号

日本サイ科学会 令和3年5月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサノビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒455-0053 名古屋市港区 名四町113 眞 野 博 英 ☎ 090-9196-2963	北 陸 〒920-0031 金沢市広岡2-7-25 プレミス金沢駅西口1 804号 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 2034	関 西 〒545-0034 大阪市阿倍野区 阿倍野元町1-2 和 田 高 幸 ☎ 06 (6624) 0569・FAX 06 (6624) 5061	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX 095 (883) 6159
---	--	---	---	---

六月通常総会・本部例会のお知らせ

※会員は午後1時30分から通常総会、一般の方は午後2時からの本部例会からご参加願います。

日時 令和3年6月20日(日)

午後1時30分～2時 通常総会
午後2時10分～4時40分 講演

会場 北とびあ9階901会議室
交通 J R 京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員二千円(当日入会可)
一般三千円 学生一千円

講演

ESPやPK現象を脳波で
解明する!

講師 志賀一雅氏

ESPやPK現象は現代科学ではそのメカニズムが十分に解明されないまま未科学現象として好奇の対象だけで片づけられています。しかし日常の生活ではESPやP

K現象を頻繁に活用しているのですから、計測可能な脳波を介在させて現象の解明を試みてきました。

その結果、電離層にあるヴァンアレン帯のプラズマ振動によって発生する4種類の電磁波(7.8Hz, 13.6Hz, 19.8Hz, 25.4Hz)と脳波に含まれる周波数とが共鳴したときにESPやPK現象の起きることが分かりました。ちょうどアカシックレコードのようにヴァンアレン帯が情報のクラウドになりエネルギーの供給源にもなっているようです。講演では実際に計測したいいくつかのデータをご覧いただきご討議いただきたく思います。

※志賀一雅氏はご自分で開発された脳波測定器で永年、多くのスポーツ選手、芸術家、瞑想家、能力者の脳波測定をされ、その独自の分析により、多くの発見をされ、論文も書かれております。また多くの有名な企業のスポーツチームのメンタルトレーニングにも貢献されております。気さくでお話も大変分かりやすい先生ですので、会員の皆様はご友人、知人をお誘いして是非ご参加ください。

今月号の記事

◎六月通常総会・本部例会のお知らせ

◎御寄付御礼

◎創立45周年記念大会発表者募集
◎事務局からのお知らせ

◎関西日本サイ科学会五月、六月
研究会のお知らせ

◎第12回スピリチュアル研究分科会のお知らせ

◎第43回宇宙生命研究分科会予告
◎令和元年9月本部例会の報告I

◎第四五回関西サイ科学会報告
◎第四五六回関西サイ科学会報告

◎本部例会講演録の販売
◎関英男先生関連書籍の販売

◎変性意識状態の研究が必要である

◎サイ現象を脳波で解明する!

◎志賀一雅氏のプロフィール

1937年 東京生まれ

1961年 電気通信大卒 松下電

器入社

1976年 東大工学部計数工学

科でα波研究

1983年 松下電器退社 脳力開

発研究所設立

現在 日本サイ科学会理事、日本

医療催眠学会顧問。

著書 奇跡の「地球共鳴波動
「8Hz」のすべて(ヒカルランド)
他多数

※5月の本部例会は通常のお休み
となります。



「心を科学する博物館」と
一般の御寄付御礼
(4/18受領分まで)

金五万一千円也 浪平 博人 様
金三万七千円也 森安 政仁 様
金二万四円也 鴨川 裕司 様
金一万一千円也 原口 和恵 様
金一万円也 久保千寿子 様
金五千円也 宮前 昭子 様
金二千円也 小林 信正 様
金二千円也 村上 一夫 様
金一千円也 占部 浩一 様
金一千円也 千葉ゆかり 様
金一千円也 飯見 勇 様
金一千円也 東條多美代 様
金一千円也 佐藤ひろ子 様
金一千円也 奥村 八郎 様
金一千円也 井上 智博 様

金一千円也 銀野 秀三 様
金一千円也 濱田 敏博 様
金一千円也 山田 真理 様
金一千円也 赤松 洋一 様

創立45周年記念大会
発表者募集

今年は1976年の日本サイ科
学会創立から45周年にあたります
ので、10月23日(土)に北とびあ
第一研修室にて、「創立45周年記念
大会」が開催されます。

前半は会員の研究発表の時間を
設け、後半はシンポジウム(テー
マは「サイと瞑想」)が予定され
おります。

会員の皆様には積極的な発表ご
参加を期待しております。

会員の研究発表では、テーマは
「サイと瞑想」に関してでも、そ
でなくともOKであり、これま
での研究での新しい発見、現在も
しくは近いうちにデータ取りをし
てまとめたこと、偶発現象(U
FO、オーブ、心霊現象等)の目
撃と原因の推測・解明、様々なサ

イ現象の仮説(理論)など「サイ」
に関連することなら何でも結構で
すので、ご自分の考えや研究成果
をまとめて、発表して頂きたいと
存じます。

7月末までにタイトルと簡単な
内容(200字くらい)をメール、
またはFAX、ハガキでお送りい
ただき、一応審査させていただい
て、通りましたら8月31日までに
原稿ファイルをメール添付等で戴
きたいと思えます。原稿の書式は
後でお知らせ致します。

※創立45周年記念大会での発表は
できないが、論文集「サイ科学」
の資料として、発表したい原稿も
募集致します。

「サイ科学 2020」最終頁の
投稿審査規定をよく読んで、応募
願います。

◎事務局からのお知らせ

今回正会員・維持会員に、通常
総会出欠用返信ハガキを同封致し
ましたので、6月13日(日)まで
にご投函願います。

また日本サイ科学会の会員メー
リングリスト(以下解説)に未登録
で、登録希望の方は、「会員メー
リングリスト登録希望」と書いて、
受信用の個人アドレスを記入して、
以下のアドレスに送信願います。
office21@psij.mail-box.ne.jp

ML(メーリングリスト)とは?
日本サイ科学会の事務局も含め
た会員同士の情報交換の仕組みで
す。

本人の希望により、メールアドレス
レス(パソコン用、携帯用どちら
でも)がメーリングリストに登録
されますと(手続きは事務局が行
います)、ML用のメールアドレス
をお知らせします。

自分が会員の皆さんにお知らせ
したい「サイ」関係の情報(自分
の著書の出版、学会発表、テレビ
出演、あるいは他のサイ関係の学
会・研究会の予告、「サイ」に関わ
る旬な情報等がありましたら、そ
の内容をML用のメールアドレス
に送信しますと、瞬時にMLに登
録されている会員全員にそのメー
ルが届きます。

その情報に対しての、返信も同
じメールアドレスに送信しますと

全員に読まれます。

マナーとしましては、個人や団体の批判や攻撃、特定の商品やサービス、会社の宣伝にあたるものはお控え願います。また、添付ファイルはウイルスが潜む可能性がありますので、禁止となります。

※メールリングリストでの事務局からのお知らせに対して、個人的に質問したいときは、ML用のメールアドレスではなく、日本サイ科学会のメールアドレスに返信願います。office21@psjmail-box.ne.jp

関西日本サイ科学会 五月研究集会のお知らせ

政木「磁気治療器」の現在（いま）
政木和三（まさき・かずみ）先生（元阪大工学部工作センター長）とのご縁に始まった私の現在

講師 北野幸治氏

日時 令和3年5月15日（土）

13:30～17:00（13:00開場）

会場 阿倍王子神社参集殿（2階）

交通 阪堺電車上町線「東天下

茶屋」駅下車徒歩5分

・大阪メトロ御堂筋線「昭

和町」駅から徒歩15分

・まつむし音楽堂から阿倍

野筋沿いに徒歩10分

会費 会員及び同伴の家族二千元

非会員三千元 学生一千元

講師を囲む懇親会（17:30～19:30）

会費3500円 定員15名

※参加のお申込みは、関西日本サイ科学会公式サイト「参加予約」フォームからお願い致します。

<http://ladies.jp/kps/>

関西日本サイ科学会がスタートした1970年代後半から80年代初頭の研究会では、自動炊飯器や湯沸し器、エレキギターなど数多くの発明品を世に出した政木博士が毎回参加しておられました。発明品の一つとして知られる「超強力神経波磁力線発生器」は3万台を超える大ヒットとなったものの、宣伝文句に効能が謳われたこ

とが法に触れお蔵入りになっていました。

しかし復活を望む声が多く、今回の北野講師が当時の製品そのままに復刻されたのは朗報です。初代発売時から政木博士とともに製造販売に携わった北野講師の実父や鎗射寺の中村和尚のお話など、サイ科学会ならではの内容になることが期待されます。

関西日本サイ科学会 六月研究集会のお知らせ

『聲』の効用について
発声のメカニズムと健康

講師 文珠敏郎氏

（医学博士、耳鼻咽喉科音声臨床医）

講師 森本まどか氏

（音声訓練士、ソプラノ歌手）

日時 令和3年6月19日（土）

13:30～17:00（13:00開場）

会場 まつむし音楽堂2F

交通 御堂筋線「天王寺」、近鉄南

大阪線「阿部野橋」で阪堺

電車上町線に乗り換え「松

虫」下車すぐ。

定員・20名

会費 会員及び同伴の家族二千元

非会員三千元 学生一千元

講師を囲む懇親会（17:30～19:30）

会費3500円 定員10名

※参加のお申込みは、関西日本サイ科学会公式サイト「参加予約」フォームからお願い致します。

<http://ladies.jp/kps/>

コミュニケーションの原点ともいえる「聲」（声）は千差万別、個性豊かで暮らしや職業と密着しています。人間は音声を鳥の鳴き声から学んだという説もありますが、よい声、わるい声、など発声のメカニズムについて専門医からお話をうかがえます。健康を保つ秘訣が「声」にあるともいわれていますが、音声訓練士による実技指導も予定しています。

第12回スピリチュアル研究 分科会のお知らせ

テーマ

「心霊能力の検証と開発法」

講師 小林永周氏

日時 令和3年5月23日(日)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ7階701会議室

交通 J R京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

会費 会員 一千元(当日入会可)

一般 二千元 学生 一千元

*事前参加申し込みは不要です。

*当日会場にて直接、現金にて参

加費をお支払い下さい。

(講演内容)

霊能者という何となく胡散臭く眉をひそめる人々がいる反面、妄信して金品を騙される者さえいます。

確かに目に見えない心霊的なものは現代の科学機器では捉えることが出来ず、客観的に検証するの

は困難であります。

古今東西の預言者や教祖、シャーマンとか、現代においても霊視や霊聴、霊言など優れた心霊能力を持った人々から怪しい自称能力者等々、ピンからキリまで様々に存在しています。

私は63年間、これらの心霊能力の真偽について好奇心を抱き、テレビ局の番組制作に携わっていた立場から興味津々、内外の心霊能力者330人の取材を通して、時には実験、検証や脳内でのメカニズムの究明にも努めてきました。

その折の実験、検証の映像を通して誰でも持っていると思われる潜在能力開発法の一部を披露し、さらにインチキ霊能者に騙されないための心得についてもお話しいたと思っています。

第43回宇宙生命研究分科会

第15回 UFO*オーブシンポジウム

テーマ 宇宙人革命

宇宙人の存在は正に革命！哲

学思想面で第2コペルニクス革命(地球人ひとりぼっち説から宇宙人てんこ盛り説へ)をもたらすばかりか、メドベット、ルッキンググラス、量子金融システム等の宇宙人産業革命、更に文化芸術面でも開星ルネッサンスを呼び起こす。今回はその「宇宙人革命」をテーマに愉しい饗宴(シユンポジオン)を繰り広げる！

日時 令和3年7月22日(木)

午前10時～午後4時30分

会場 北とびあ7階701会議室

交通 J R京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

参加費 一般 二千元

学生/サイ・サトル会員 一千元

宇宙人 0円(但し受付の要認可)

令和元年9月本部例会報告I

脳波とヴァンアレン帯のプラズマ振動との共鳴について

講師 志賀一雅氏

私は毎日の習慣として朝、家の近くの王禅寺という古い山寺の辺りを千歩を目安に散歩をしています。そこは起伏が多いので階段があるのですが、昨日の朝、散歩の帰り道で、常々ここで転んだらやばいぞ、と思いつながら注意して歩いていたのですが、注意が効きすぎて躓いて転んでしまい、歳を取っているので手出し反射がすぐになく、肩から落ちて、鼻を打ってしまいました。鼻血がいっぱい出て、唇を切って、結構血だらけになってしまいました。

朝早い散歩なので、あまり人が通らないのですが、たまたまいた散歩仲間のお年寄りが数名来て、騒ぎになり、救急車を呼びましたよとか?と言われました。自分としては意識がしっかりしているつもりなので、大丈夫です、ということでも立ち上がろうとしました。

ところが、身体が老化していることもあり、すぐには立ち上がれなかつたので、ゆっくりゆっくりやっとの思いで立ち上がって、家に戻りました。

激痛があつたのですが、私は長い間、自分の開発した脳波計で、いろいろな状況での脳波を計つて脳の働きを調べてきたので、これも与えられたすごいチャンスだと思つて、自分の脳波を計りました。そうすると、周期的に痛みが強くなるのですが、その後ふつと痛みが緩くなるときがあつて、そのときの脳波は強いアルファ波が出ています。激痛のときにはいろいろな周波数の波が重なつて出るので、一言で述べればベータ波と言つてもいいのですが、ベータ波がぐつと出た後、またアルファ波がしばらく出てきて、痛みが緩みます。

発見というと大げさですが、自分の激痛を通じて脳波がどうなつていけるかが分かり、なぜこんなに痛いのかというと、大切なシグナルなんでしょいかね、こんなに痛いとは何もできないですからね。ということ、何をしてもいけないという意味なんでしょうが、脳は痛みを出して活動を抑制しながら、アルファ波が出るということは修復しているということですね。怪我したところを治そうとして、だから痛いのはつらいですけれど、

痛いのを受け取ることによって、治りが早いんじゃないのかな、と思います。



私もそうですけれど、痛みを避けるためには鎮痛剤とか、痛み止めを塗布するのですけれども、そのことによつて痛みが緩和されて他のことができる、仕事ができるということになります。そうすると仕事に関して脳が結構活動してしまいますから、修復が遅れることになるのかな、と思います。

だから痛みを受け取つて、そして修復していくような期待感、あるいは希望をもつていくと、脳はうまく動いて治っていくのかな、と思います。実は昨日の段階では、今日ここに立てるかどうか分から

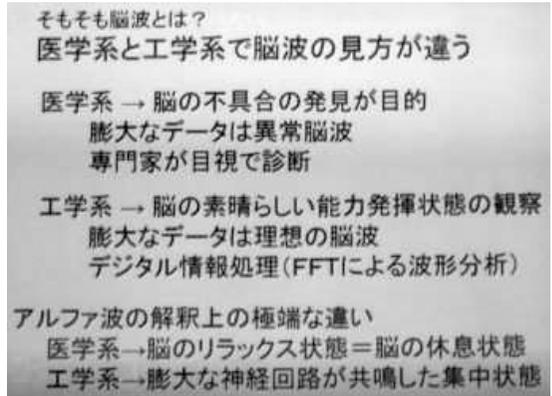
ないくらい、唇がすぐく腫れてしまつて人前に出られないくらいだったのですけれど、今朝起きたら腫れが割と引いていて、まだ少し残っていますけど、こんな状況なんです。

ですから、脳波を計りながら、人間の様々な現象を少しずつ予想しながら、より良い脳の働きにもつていこうという提案ができるんじゃないのかなと思います。

今日皆さんに聞いていただくのも、ある意味では大胆な仮説なんですね。とんでもない考え方といえそうですが、ただ全く根拠のない仮説ではなくて、脳波的な観察と客観的な空間の観察とを重ね合わせたときに、こうなっているんじゃないのだろうか、という思いをここに提示して、ぜひ皆様方の忌憚のないご意見、願わくば反論をしていただくと、それに対してまた理論を構築していけるんじゃないかと思っております。

ヴァンアレン帯そのものは、シューマンの仮説ではあつたんですけれど、プラズマ振動していると

いう説でしょうか。でもそのヴァンアレン帯にも沢山のロケットが通過するわけですから、通過する中に観察される事実がいろいろ出てきました。とりあえず、ヴァンアレンという物理学者が+の層と-の層があるということ、観察の上で発見したことを、観察で、ヴァンアレン帯という名前を付けているのです。でもこういうヴァンアレン帯があるだろうということは、もう少し前にシューマンという人が、計算上地球の周辺にこういうものを取り囲んでいるという説がありました。これもまた仮説なんです。シューマンが提示した説の段階では、計測する技術が全くなかつたから、本当にそういう層があるか分からなかつたんですね。幸いロケットを飛ばすことによつて、ヴァンアレン帯の存在の事実が分かつて、だしたらプラズマですから振動しているんだと、振動の周波数を計りましょうということ、どんどん地球周辺の物理的状況がはっきりしてきました。その中に我々は住んでいますので、影響をすごく受けるんじゃないかと思ひます。



そもそも脳波とは何か？というお話になりますけれど、1929年にドイツの神経科学者、精神科医のHans Berger博士が人間の脳の中は電気的な情報処理をしているのではないだろうかということの事実を発見をしたのです。電気的な波が観察されたのです。

その波のいくつかを分類しながら、今でいう、アルファ波、ベータ波という表現も、この段階で既に提示されています。ただHans Berger博士は医学の分野に属して

いますので、人間の脳の中で電気的な活動をしている事実は、医学の方向で活用されたということになります。医学系と工学系で脳波の見方が本当に違うなど痛感しますので、ここで整理してお伝えしたいな、と思います。

脳波の最初の発見はHans Berger博士ですが、脳の中で電気的な信号が観察されるということから、恐らく脳の活動の不具合とか、あるいは病的な疾患が見つかるんじゃないだろうかというような観点から、盛んに脳の異常を中心に観察してきました。膨大なデータとして異常な脳波が沢山あります。それはそれで大事な事ではあるのですが、私自身も医学とはあまり関わっていないところにあります。

工学的な目で見たとときに、やはり情報処理する、まさにコンピュータ、AIですけれど、そういうものの発展に参考となるようなデータがほしい。そういう意味で、脳の素晴らしい能力発揮の状態を脳波という切り口から見ているという立場です。幸い工学系ですと、ITという情報処理の技術が非常に進歩しています。

医学系は専門家が脳波のデータ

の目視で波形を診断するので、相当年期を積まないと脳波の分析ができないということになります。工学系ですと、デジタルな情報処理そのものが確立された技術であります。それを活用しながら、結果を議論するというのですから、若い科学者達でも十分に脳波は観察できることになりました。

医学系と工学系の立場の違いからくるのですが、同じような脳波の解釈が、まるで逆のような状態になってしまいうのですね。よく皆様方が目にされる、アルファ波というのが、脳波の一つの特徴的なパターンですが、これを医学系では「アルファ波はリラックスしている状態である」、だからアルファ波が一杯出ている脳状態は、脳があまり活動していないので、惚けの方向に行くので危険だよ、というサインまであります。

それに対して工学系では、アルファ波の波形から見ても直感的に分かるのですが、沢山のニューラルネット（神経回路）が共鳴し合っって情報処理している、だから共鳴振動になっているのだ、ということになります。したがって集中

した能力発揮の状態というふうに解釈していますから、工学系ではアルファ波が出るほどいいということになります。

これまで医学系と工学系がお互いに集って、ディスカッションするような場がなかったものですが、分かれたままずっと来てしまったということでしょうかね。

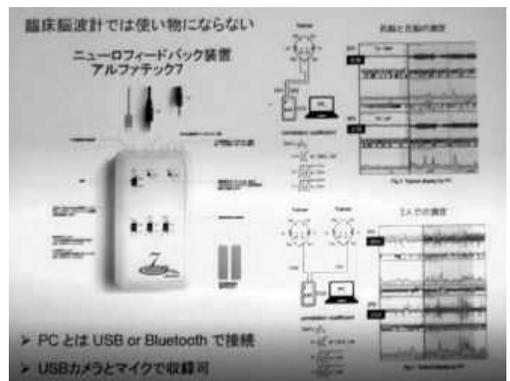
私自身は工学系の立場を取ってきていますので、脳の異常な人の脳波を計るということは全くできないけれど、逆にいったら脳の素晴らしい働きをもっている人の脳波を計ってきました。具体的に言えば、記憶力がすごい人がいるんですよ。元ソニーにお勤めの方ですが、私が脳波を計らせていたのだいたいの、30年くらい昔ですが、その段階では記憶力世界一人のゲネスブックに名前が載っておりました。8年間ずっと世界一を保っておりまして、円周率を小数点以下4万桁まで記憶していて、ランダムアクセスで、途中どこからでも言えるのです。私が実験した段階では、円周率の数表を手元に置きまして、「では小数点以下、14321桁から言ってください」というと、そこからずっと数を言

えるのです。ただ早くすらすら言えるときと、ゆっくりつつかえながら言うときがありました。非常に面白いことに、アルファ波が強いと、私が数字をチェックするの間に合わなくなるくらい非常にスムーズに言えましたし、間延びするときは、アルファ波の振幅がぐっと小さくなるのです。そしてちよつと黙ってしまうと、アルファ波がほとんど途絶えてしまうのです。ご自身もすぐ分かるので深呼吸をして、親指と人差し指をこするのです。すると一種の条件反射で、またアルファ波が出てきて、数字が出てくるのです。そういうのを観察していますので、アルファ波が惚けに通じる脳波とはとても言えない事実があります。現在は円周率は、別の日本人の方が10万桁を超えております。

だからアルファ波ベースで、脳の神経回路が記憶する、聞く、しゃべるなど、すべてシンクロ(共振)すれば、与えられた課題に対して答えられるということになります。そのシンクロというのは、波形的にいうと、調和振動すなわちアルファ波ということになります。

その他に既に亡くなりましたが、

将棋の永世棋聖の米長邦雄さんも好奇心旺盛で、私が本を書いたときに米長さんに被験者としてご登場いただいたのですが、百手詰めの問題をやっていただきました。うなつたり深呼吸しながら、7〜8分かかったでしょうかね。最初はほとんどアルファ波が出なかったのですが、そのうち閃いたのが出て、そしてまた手筋を考えながら、3回位閃きがあつて、「あつ、詰んだよ、君」とおっしゃったのですが、そのときに非常に強い10ヘルツのアルファ波、より厳密にいうと、9・9ヘルツのアルファ波が強く出たときに閃いております。その他では、野球選手がホームランを打った時の状況を思い出しでもらうと、強烈にアルファ波が出ております。だから条件付けがされているのだろうと思います。そのくらいに脳がうまく活動しているときの脳波的特徴パターンは、10ヘルツを中心としたアルファ波が出ています。個人で若干違いがありまして、9・9ヘルツの人や、10・1ヘルツで出る人もいます。



このような細かい周波数を特定するのは、通常の臨床用の脳波計ではとても測定できません。臨床用の脳波計は非常に高価であり、大きくて装置の側へ行かないと測定できないですし、また未だにペンレコーダーで描かせて、それを熟練者が直感的に判断しているケースが多いのです。

私の開発した脳波計は、小型でフリーエ解析しながら、周波数を明確にするような装置になっておりまして、これまで長い間、いろいろな方の脳波を計らしていただいております。

第四五回関西日本サイ 科学会研究集会報告

宇宙の響きで生きる「ゼロ
磁場発生装置」の神秘

講師 上森 三郎氏
うえもり さぶろう

(一級建築士、ネオガイヤ株式会社
代表取締役)

日程 令和3年2月20日(土)
会場 阿倍王子神社参集殿

講演内容

建築の世界で働いていた私は、シックハウス症候群を解決するのは「水」だと気づき、水道水に生命力を取り戻す活水器を開発しました。それが、ゼロ磁場発生装置です。ところがこの装置は、私の想像を超えた不思議な力を持っていることが分かってきたのです。その一つは、人間の脳波を、地球の脳とも呼ばれる7・8ヘルツのシューマン共振波に導く作用です。

これまでに実施したいろいろな実験や、ご愛用いただいている方々の証言など「ゼロ磁場発生装置」

の開発から最新情報までをお話しさせていただきました。なお、本日の会場となった阿倍王子神社・安倍晴明神社は空海の導きもあつたのか、古代史解明の重要なポイントとなっておりますので申し添えます。



◎上森三郎氏のプロフィール

1954年熊本県芦北郡芦北町に生まれ、一級建築士として30年間建築業に従事。シックハウス症候群の研究から水の活性化こそが重要であることを突き止め、流体を活性化させるゼロ磁場発生装置

「ネオガイア」「テラファイト」を開発、日本、アメリカで特許取得。その他にも多数の特許を取得する発明家。現在はゼロ磁場発生装置の普及に努めるとともに、神社仏閣・城・磐座等の探索により隠された古代史を解明し、兵庫県中部の埴岡の里の重要性を世界に発信する活動を続けている。

著書に『新装版』『世界文明の起源』は日本だった、『イスラエルの「元つ国日本」にユダヤ人が戻ってくる』、『秘密NIPPONの《超建國》裏返史』、『空海様と七福神が隠して伝えた「世界文明の起源」』(以上ヒカルランド)、『不死鳥のあしあと』(株TTC)、DVD『この日本に地上絵大発見!』など多数。ネオガイア株式会社 代表取締役、株式会社 T. T. C 代表取締役。

第四五六回関西日本サイ 科学会研究集会報告

出口王仁三郎(でぐちおにさぶろう)と霊界物語

講師 出口孝樹氏
でぐち こうき

日程 令和3年3月20日(土・祝)
会場 阿倍王子神社参集殿

講演内容

出口王仁三郎(明治4年〜昭和23年)は、稀代の宗教家であり、京都府綾部市を発祥地とする新宗教『大本』の教主の一人です。(もう一人の教主は出口直二なお開祖)。書画、陶芸、歌の道にも通じておりそれぞれに膨大な数の作品を残しています。大正10年と昭和10年の二度に亘り国家から弾圧を受け、当時の世間からは、国賊、逆賊、詐欺師、怪物などと呼ばれました。戦後から近年にかけては、宗教ブームやスピリチュアルブームなどの影響もあって王仁三郎に対する評価も変化しました。予言者、霊能者などと神秘的に称されたり、破天荒な行動と気宇壮大な人柄から、大化け物、巨人などと呼ばれることもあります。没後73年を経た今日もなお、その言葉には収まりきれないほどの存在感を放っています。

今回は、いくつもの顔を持つ出口王仁三郎を様々な角度から捉えて解説し、王仁三郎のおおよその輪郭を感じとっていただくとともに、その宗教思想の核心ともいえる『霊界物語』(全81巻83冊)についてお話しいたしました。もちろん83冊にもおよぶ『霊界物語』を一日で説明し尽くすことは不可能ですが、その内容であるところの、宇宙の創造・神々の地位や因縁・神と人との関係・霊界の真相・人生の目的と使命・哲学・宗教・政治・経済・教育・芸術・恋愛、等々の中から、いくつかのストーリーをピックアップさせていただきます。出口王仁三郎の魂に触れていただく良き機会になれば幸いです。

◎出口孝樹氏のプロフィール
1969年京都市生まれ。出口王仁三郎が著した壮大なスピリチュアルストーリー『霊界物語』(全81巻83冊)の勉強会を全国各地で開催している。大本宣伝使。大本信徒連合会代表役員。『霊界物語コミックス』などを監修。

《本部月例会・全国大会講演録音の販売》

本部月例会・全国大会のビデオ録画以前のICレコーダーによる録音の音声ファイル(拡張子wma)なので、聞くためには「CD、DVDプレーヤー」の付いたウィンドウズ・パソコンが必要になります。

以下のリストから興味のある講演、今一度聞いてみたいものを御注文願います。講演時間は平均3時間前後で質疑応答等も含まれます。マイクからの直接録音ではなく、やはり会場のスピーカー音の録音ですので、完璧な鮮明さではありませんが、もちろん内容は普通に聞き取れます。当日放映されたビデオやOHP等で紹介された図や写真は付いておりません。

講演録の代金は1回分1,500円(送料等含む)です。お送りするのは講演録の入った「CD-R」で1枚につき6、7回分が入ります。(一部のノートパソコンを除いて、大抵のウィンドウズ・パソコンには、「CD-Rファイル」が読めるプレーヤーがついております。)

※御注文はメールまたはFAXで、下記のメールアドレス(またはFAX番号)に、「201※年〇月〇〇〇〇氏講演録音購入希望」と記して、郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、御注文願います。2週間以内に発送致します。

お支払いは、到着後同封の郵便振替用紙で8日以内にお振り込みいただければ、結構です。

E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp FAX 047-330-4091

- 2010/10/10 第21回全国大会 シンポジウムテーマ「2012年問題とサイ」
- 2010/11/14 秋山真人氏「夢診断と未来予測」
- 2010/12/12 宇治橋泰志氏「新たな予防医学を目指して」
- 2011/ 1/ 8 新年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
- 2011/ 2/12 石川和孝氏「世紀末的神示と予言の陰陽道的思考」
- 2011/ 5/14 赤松 瞳氏「最新脳科学と透視能力」
- 2011/ 6/12 井出 治氏「未知エネルギーの研究とチャネリング」
- 2011/ 7/18 古村豊治氏「なぜあなたに大きな奇蹟が起こらないのか?」
- 2011/ 9/10 鈴木俊輔氏「3・11新文明の幕開け～日本人の使命～」
- 2011/10/ 9 創立35周年記念大会 シンポジウムテーマ「パワースポット」
- 2011/11/12 小林信正氏「心霊現象について」
- 2011/12/10 忘年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
- 2012/ 1/14 ミッツィ植田氏「縄文スピリットでサバイバル」
- 2012/ 2/11 小林正典氏「サイ科学に関係した電気・磁気の研究の紹介」
- 2012/ 4/14 ロン薄葉氏「オーブ現象とこれまでの歩み」
川崎利男氏「オーブ観察7年間その傾向と残された課題」
- 2012/ 5/12 徳永康夫氏「命とソマチットと般若心経の探検」
- 2012/ 6/10 松永修岳氏「密教開運術『強運の成長戦略提言～氣を高めれば運はやってくる～』
- 2012/ 7/14 中島敏樹氏「水と珪素の集団リズム力」
- 2012/ 9/ 8 ホンマシュウジ氏「未曾有の天災・人災を目の当たりにして、サイ科学は何ができるのか!？」
- 2012/10/14 第22回全国大会 シンポジウムテーマ「コンタクト」
- 2012/11/10 藤森博明氏「気(生命エネルギー)の存在と能力」
- 2013/ 1/12 志賀一雅氏「α波のコヒーレンシーについて」
- 2013/ 2/ 9 宇治橋泰志氏「疾病を根本から改善する新治療法を求めて」

故 関英男先生のサイ関係 (+ α) の主要な御著書 (在庫のあるもの)

	定価	送料
加速教育法 (1990: 加速学園出版部)	2,100 円	(300 円)
加速学習法 (1995: 加速学園出版部)	2,550 円	(200 円)
サイ科学の全貌 (1991: 工作舎)	1,995 円	(200 円)
グラビトニックス (2000: 加速学園出版部)	1,000 円	(160 円)
念波 (1990: 加速学園出版部)	800 円	(160 円)
CD: 生命と宇宙 [講演録 72 分] (1998: 船井メディア)	3,000 円	(160 円)
謎のオズマ計画 - UFO との関連 - (1976: USL)	190 円	(80 円)
FIVE DIMENSIONAL WORLD (1974: 英語版)	1,000 円	(160 円)

※「深宇宙探訪記」は大幅に値下げ致しました。

以下オスカー・マゴッチ著、関英男先生監修

深宇宙探訪記 (上) (1991: 加速学園出版部)	1,000 円	(200 円)
深宇宙探訪記 (中) (1992: 加速学園出版部)	1,000 円	(200 円)
深宇宙探訪記 (下) (1992: 加速学園出版部)	1,000 円	(200 円)
VHS ビデオ: オスカー・マゴッチ氏の講演 (2h40m)	3,000 円	(200 円)
VHS ビデオ: ティモシー・ワイリー氏の講演 (2h45m)	3,000 円	(200 円)

※ビデオは日本語逐次通訳付きです。

お問合せ、御注文は先に下記の E-mail、または FAX 宛にお願い致します。

その際、書籍名と送り先の郵便番号、住所、氏名、電話番号もご記入願います。

ご返事で送料を含めた代金やお振り込み方法等のご連絡を致します。

※正式な御注文から 2 週間以内に発送致します。

※1 種類で沢山の部数を御注文の場合は、事前に在庫を下記の E-mail または FAX で確認して頂いてから、お願い致します。

※以上の書籍は今後増刷がありませんので、在庫が無くなりましたら、ご容赦願います。

< お問い合わせ >

日本サイ科学会事務局 〒 271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町 41-506

E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

FAX 047-330-4091

間を超えて宇宙・空間に充満している、と判断した。また(2)透視や念写の研究を進めると、「霊」の本質が分かる様になるだろう、と解説している。私たちは、ASCになり、目隠しをして、非肉眼で、物を見る(透視)時に、サイ(気)が体外に放出されて、向こう側(意識体)と、こちら側(意識)との間の情報交換(マクロPK)によって、「物を見る」事が出来る。また念写時には、「A」を能力者の意識、「B」を念写対象物(オーブ)とするとき、皮膚(チャクラ、約2箇所)から放出される陰陽のサイ(気) spin対が仲介物になって(意識体として)念写像(B、オーブ)形成を進めている。つまりAとBの間のマクロPK(情報処理)をサイ(気)が受け持つ事になる、と判断している。

4) 宇宙人とUFOの存在

万物は誕生・成長・滅亡を繰り返しているという。地球上の生命もこれに含まれるのであろうか。最近の情報(並木伸一郎、ムー誌、No.471、PP.156-157)等によると、中国の月探査機(2019年1月)が、月の裏側に着陸した。近距離で撮影した写真には宇宙人の宇宙基地らしい人工物が映っており、これを中継して、異星人が地球にきているという。他方、NASAには、アポロ計画がある(1969)。アポロ11号によって人類初の有人月面着陸が成功し、14~15号によると、長さ1000mを超える巨大構造物などが発見された。これら米国や中国から報道される宇宙人(エイリアン)情報には、周知のグレイタイプが多い。目が極端に大きく、頭も大きい。これは、水分が無く、植物や動物が住めない環境の、乾いた岩石と土砂の環境に住む宇宙人に必要なものは、主として、目と頭の機能である事を意味しているのであろうか。これから判断・推定すると、地球外の天体(月や星)に住む宇宙人やそこにおけるサイ(気)の研究には、目によって(視力として)見る事並びに頭で通信し、情報を交換し、思考(意識)判断する事が、重要であることを暗示している様に思う。

5) 気血の循環とサイ(気)

人間は必ず死を迎えることになる、死なない人はいない。死によって科学的な物質としての肉体は自然に帰るが魂はどうなるのか。あの世

に帰るといえるが、あの世は何処にあり、何をするとところなのか。未知な上に、不可解な部分が多い。東洋の伝統的な医学には、気血の循環という言葉がある。上の2)で述べたが、体内では気・血・水が循環している。人は、脳波を下げて7~8Hzの変性意識状態(ASC)付近になり、イメージする(意念する)事によってサイ(気)を体外に放出することができる。サイ(気)は超常現象の原動力である。良質で豊かな超常現象を現出するためには、体外に放出されるサイ(気)が良質で豊かでなければならない。日本では体内の血流等を研究する学会「日本NO学会」が2000年に設立されている。サイ科学から推察すると、体内を流れる「気、血、水」は生命維持に欠かせない物質であり、体内を流れる「気」は生命エネルギーでもある。血は血液が運ぶ栄養だけではなく、意識や精神をはっきりさせる役目をも持っている。健康は気と血が調和する事によってたもたれているという。具体的には血管を拡げて血流を良くする。つまりは、健康で良い血流が得られる身体からは良質なサイ(気)が放出される事になると思う。

6) 超常現象の出現

サイ(気)の出現によって超常現象が生起してくる。具体的には、

- (1) 遠隔透視：肉眼を使わないで物を見る。
- (2) テレキネシス：思考や意思の働きにより、物体を動かす。
- (3) テレパシー：人から人に、人の考えや気持ちを伝える。
- (4) ヒーリング：西洋医学的や物理的な方法によらずに病気を治すこと。
- (5) その他：

諸物には精霊が宿っている。天にも地にも、万物に精霊が宿っている。サイ(気)は精霊の一種なのかもしれない。良質で強力なサイ(気)を得る為には、毎日のたえざる訓練が必要である。心身が健康であることが必要になる。さらに強力なサイ(気)を得る為には、波長の短いサイ(気)、つまり陰・陽サイ spin対(光子)を得る為の工夫をする必要がある。

ご指導頂いた品川次郎先生にお礼申し上げます。

変性意識状態の研究が必要である

栗田 慶祐

1) 変性意識状態とは

はじめに、「変性意識状態 (ASC) について概説する。福来友吉先生は世界に先駆けて (人類史上の最初に) 念写の為の「念」を発見した (1910)。「念」は願いを持ったエネルギーで、変性意識状態 (ASC) になった超能力者から放出されるものであり、時間や空間を超えて宇宙に広く充満していると判断していた。現代になり、私たちは、体外の空間に存在するオーブを変形して三日月型の念写像を形成する実験をおこなった (2018)。

そして、福来先生の「念」と、オーブを形成させる「サイ (気)」とは、ほぼ同一であろうと判断した。念写とは、光を遮断した乾板 (フィルム) 上に、念じる事のみによって、念 (意識) じた事物を乾板上に感光させること。そして、サイ (気) とは、変性意識状態 (ASC) になった時の能力者が、非肉眼で物を見る時 (透視時) に、体外に放出されるもの、また、時代は異なるが、両者の実験内容はほぼ同一であり、「変性意識状態 (ASC) 下の意念によって念写が行われている」と判断することにした。ASCは昼間の生活時と夜の睡眠時との間の特異な意識状態として存在しており、別名をトランスとも言われている。催眠や超常現象の実験時 (ASC) に現れており、超常現象の発生に関与していると判断している。しかし実体は不明であった。

2) 精神面からの研究

東洋の伝統的な医学では、「脈診 (脈を診る)」によって「サイ (気)」が感知されてきた。脈診は、明治時代になって西洋から科学的な医学が導入されるまでの永い間、診察や治療の実用面で広く用いられてきた。つまり東洋医学の主たる目的は、脈診を介して健康と病状を知る事。脈診によって身心の健康の度合 (状態) が判断され、実用化されてきた。他方、超能力の分野では、サイ (気) は肉体と精神と魂を結び付けるエネルギーであり、気・血・水の循環と言われるように、血液の流れに関連

して生命力が流動するものと判断されてきた。なお一般には、気功師が手かざしによって治療をする時に、手の平からサイ (気) が放出される、と考えられている。

現在の西洋医学が定量的・解析的に生命を扱うのに対し、脈診は「命、いのち」として総括的に (全体的に) 健康状態を診断する傾向がある。つまり非定量的であり、視覚的、暗黙知の面が強いと言われている。さらに、病気の主原因は、体内における生命エネルギーのバランスや気血のバランスの崩れと、気血の滞りであると考えている様子である。

現代社会は科学万能であり、生命や精神面までも科学的・数理的に扱う傾向がある。つまり、万物の霊長としての人の心や、優しさをも (神に代わって) AIとして造ろうとしている。これは科学の進歩としては、正しいと言えるであろう。しかし限界のある話でもある。「人は肉体と心から出来ている」これは誰もが認めざるを得ない。すべては科学的に進行する様に見えるが、未解決な問題として、最後に残されたものは精神、心、意識である。例えば、いくら物質面が豊かであったとしても、心が豊かでないと、真の幸福は得られない。つまり、人間は心と肉体からできている。肉体として物の面だけでは解決されない問題がある。人として大切な心や魂を物で造る事が出来るだろうか。いまの当面の問題は念写・透視等の研究であるが、真の「念」や「サイ (気)」の解明には、人としての精神面からの検討が必要になると思う。

3) 「念」と「サイ (気)」の出現

福来先生は、変性意識状態 (ASC) になった超能力者が、念ずることによって、透視と念写が可能になる、ことを実験的に確かめた。そして (1) 念写の「念」は、時間を超える (遙か昔の弘法大師像の念写が可能)、空間を超える (遠くの、月の裏側の念写像が可能)、願いを叶える (数枚重ねの乾板の任意の枚数目に、任意の念写像を念写する) 等から、念写時の「念」は、時

睡眠中の脳波

睡眠に関して考えていたらSNSのホリエモンチャンネルでスタンフォード睡眠研究所所長の西野精治氏との対談の動画だったので観ていたらスタンフォードが睡眠に関し世界一の研究所なのだそう。それを知らずして睡眠に関しては語れないので急遽西野氏の著書を読みました。しかし睡眠研究は1957年以降ほとんど進展していないようですね。

睡眠はオーソ睡眠とパラ睡眠(逆説睡眠)の繰り返しで90分周期とされています。オーソ睡眠にはI~IV段階の深さがあるとどの本にも解説がありますが生理的な指標が示されていないので計測して確かめようがありません。

睡眠中は周期的にREM睡眠が現れますがその目的やメカニズムははっきりと分かっていません。寝返りしたりイビキや夢を観るようですがしっかりした研究論文は見つかりません。

図5に睡眠中の脳波の一例を示しました。何人かにご協力いただきましたがその代表例を示しました。計測の装置はアルファテック7G。小型軽量でPCとBluetooth接続でベッドの中に持ち込めますし収録機能を備えていますから寝言やイビキも録音できて分析に役立ちます。

図5で明らかなようにREM睡眠はほぼ90分周期で表れますから時間軸を拡大して表示しますと図6のようにいくつかの波の合成になっている事が分かります。それらを調べますと何と7.8Hz、13.6Hz、19.8Hzなのです。

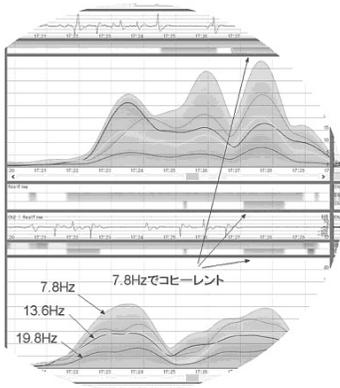


図6 REM睡眠の脳波

周波数が低いので波長を計算すると4万kmにもなります。ほぼ地球一周をおおっていますから洞窟や海中など地球上のどこにいても同じように作用力を受けます。

パラ睡眠(逆説睡眠)は最も深い睡眠状態で、覚醒には強い刺激が必要ですが、脳波は覚醒時と同様の振幅を示し速い眼球運動がみられることからREM睡眠(Rapid Eye Moment)と言われ睡眠中にほぼ90分周期で繰り返し現れ、夢を見ていることが多いとのこと。

オーソ睡眠は対照的に静かな眠りでN-REM(Non REM)と最近では表現されています。眼球の動きが本質ではないように思われるのでどうもこの命名には疑問があります。

睡眠時間が45分で6年間も元気なショートスリーパーの堀大輔さんの睡眠中の脳波も測らせてもらいました。また殆ど寝ないというインドジャイナ教の最高聖者91歳のキルティーグルの脳波も測りました。

いずれも日中やREM睡眠でヴァンアレン帯からのエネルギーとリズムを取り込んでいるのだとの確証が得られました。

睡眠では脳は休んでいないのですよね。



写真2
ジャイナ教最高聖者キルティーグルの脳波計測

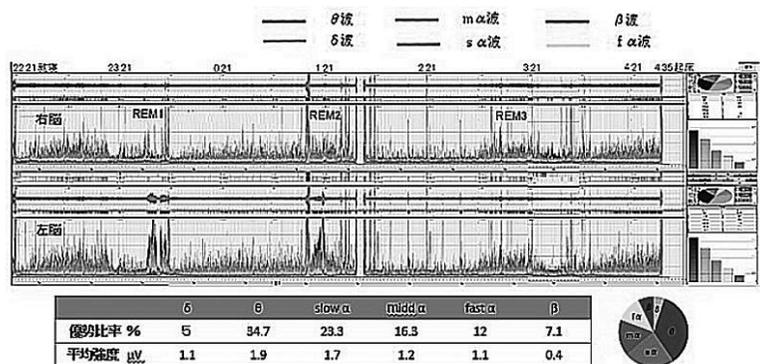


図5 睡眠中の脳波。寝てはいるが脳は活発に活動している



写真 1 ヴィオラとお経の即興演奏

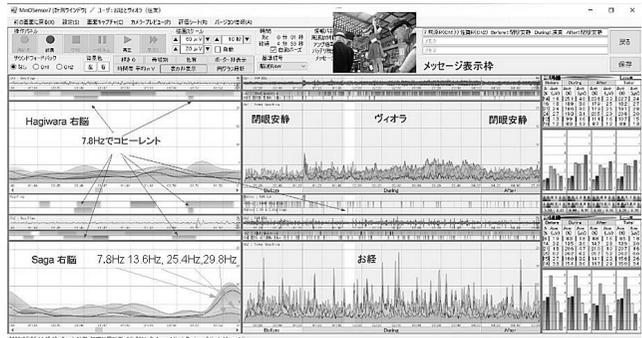


図 4 即興演奏中の2人の脳波

また私たちの体も細胞の変動の集積ですが穏やかな状態では、例えば呼吸のリズムや心拍も機械的な一定の周期性ではなく1/f揺らぎであると報告されています。

これらの事実をまとめますと地球上の全ての変動は機械的な一定ではなく、さりとして無秩序でもないある種の規則性がありそうです。

その源を探るとどうも電離層のプラズマ振動ではないかと思われます。シューマン共鳴です。ロシアの宇宙監視センターからネットで公表されている4種類の電磁波も1/f揺らぎなのです。

そこで試みたのが同じ揺らぎの強いもののアンサンブルで実現したのが法音寺でのヴィオラ即興演奏と読経でした。

お2人にも快諾いただいて打ち合わせもなく興演奏でしたが最高にうまくいきました。あらかじめ打ち合わせをすると、どうしても思考が働き脳波に影響が出てしまうからです。

演奏者の脳波や読経者の脳波、それを聞いている人の脳波も見事に7.8Hzでコヒーレントになりました。その一部を図4に示します。

図4上段がヴィオラ演奏の萩原薫さんの脳波で下段が読経の佐賀和尚の脳波です。脳梁で繋がった右脳と左脳とですらコヒーレントにはなかなかならないのに電気的な繋がりの全くないお2人の脳波が7.8Hzでコヒーレントになる!

これは明らかに空間に存在するヴァンアレン帯からの電磁波である7.8Hzが介在した現象と考えられます。まさに天が2人を繋げたと言ってもいいと思います。

図示は省略しましたが、このヴィオラ演奏と読経のアンサンブルの実験立会人としてお願い

した脳力開発研究所の住友所長の右脳と左脳との共鳴も調べました。

閉眼安静時では左右脳の脳波の位相が揃っていなかったのに、アンサンブルを聴くに従い揃いだして最後の閉眼安静状態ではほぼ完全に揃ったと言えます。

これは音響の心理生理学的な効果とも言えますが、7.8Hzで頻繁にコヒーレントになりましたので空間の電磁波との共鳴だと考えた方が自然だと思います。

このような考え方はまだ科学的に認められていませんが、根気よく論文を出せばいずれ認められると思います。

お経の意味を見直そう

浄土宗は阿弥陀如来が説いた極楽浄土の世界で、観無量寿経は岩波文庫で現代語訳付きで見ることができ、極楽浄土がいかに素晴らしいかを想像するイメージトレーニングなのです。

脳波研究を始めたとき記憶力世界一の友寄さんや将棋の米長永世棋聖の α 波が強く、自分の脳波は殆ど α 波がないので密かに α 波の強化を試みたことがあります。

早朝座禅に通い自律訓練法の講座を受けヨガや瞑想法を試み、催眠療法も体験しましたが、それなりの効果は認められたものの、印象深かったのは浄土宗の観無量寿経でした。いろいろ試みたのでどれが効果的であったかは分かりませんが、その時の試行錯誤が今のMWT(メンタルウェルネストレーニング)に活かされています。

遠隔治療の脳波

遠隔リーディングやヒーリングはよく聞く話です。幸い前回紹介した自動書記の利空さん (<http://www.rikuusha.com/>) にご協力いただき脳波測定しました。いかに強い脳波が観察されても、そのエネルギーが遠隔の人に影響を与えることはとても考えられませんが実際に情報を読み取ったり作用力を及ぼしています。

丁度お使いの携帯電話を想像してください。携帯電話には電磁波を発信する回路とアンテナが備えられていますが北海道や沖縄には届きませんし、アメリカは無理です。それにも関わらず通信可能なのは、契約した通信会社の電磁波を利用しているからです。

それと同じように図2に示す電離層の電磁波を介して地球全体を覆っていてヒーラーと遠方のクライアントとのコミュニケーションが可能になっているのです。そのことを実証する実験を準備中ですが予備実験を図3に示しました。脳波分析プログラムにインターネット時計か電波時計を組み込めば可能だと思います。

図3は上段がクライアントの左脳の脳波を、下段が利空さんの左脳の脳波を示しています。

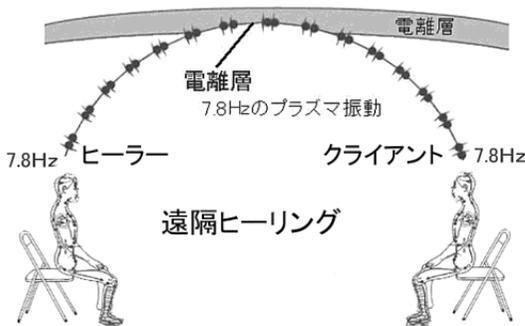


図2 遠隔ヒーリングのモデル

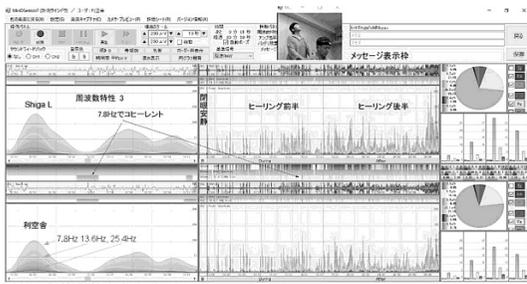


図3 ヒーリング時の脳波共鳴

同一人物の右脳と左脳でもこれほど揃いませんが別人ですから驚きです。

図3の左側に時間軸を10秒に伸ばした波形が示されています。ヒーリング中はこのように2人の脳波がそっくりになります。更にスペクトルを調べると7.8Hzと13.6Hz、25.4Hz、29.8Hzを示しています。これらはまさにヴァンアレン帯からの電磁波の周波数なのです。

この事は2人がそばにいますが、脳波が空間に存在する電磁波を介して共鳴していることを示していますから、図2の状態が実現しているわけです。

ところで原論文を見ていませんがアメリカの医学会でも祈りが患者の治療に有効であることが統計的に証明されたとのことです。多くの祈りは願望が強いでしょうから脳波は10Hz中心のミッドα波が多くなり空間に存在する電磁波とは共鳴しませんから遠方への作用力はとても考えられません。

ところが喜びと感謝の祈りですと、脳波には7.8Hzのスローα波が強く含まれていますから空間に存在する電磁波と共鳴して図5に示すように遠方に届くのだと考えられます。

ヴィオラとお経との即興演奏

以前に萩原薫さんがCDの収録の際ヴィオラ演奏しているときの脳波を測ると右脳と左脳と7.8Hzで頻繁にコヒーレント(位相が揃う)になり、それが奏でる音に心地のよいビブラートがかかる要因ではないかと思っていました。 (<https://kaoruhagiwara.jimdofree.com/>)

一方浄土宗法音寺の佐賀和尚の読経のときにも右脳と左脳と7.8Hzで頻繁にコヒーレントになり読経の声にも7.8Hzの強いビブラートがかかっていました。そのビブラートを分析したら揺らぎの周波数をfとすると出現頻度は見事に1/fの規則性になっていたのです。

自然界に存在する心地の良い変化は1/fゆらぎであると言われています。小川のせせらぎや穏やかな日の波の音。そよ風や夜空の星の瞬き。そよ風に揺れる木の葉も同じです。



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp
公式サイト <http://psi-science.org> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

サイ現象を脳波で解明する!

脳力開発研究所 相談役 志賀 一雅

脳波に含まれる情報

2017年「サイジャーナル5、6月号」と2018年「サイジャーナル1、2月号」に「サイ現象と脳波」と題しESPやPKなどと超能力者の脳波との関連を記載させていただきました。

その後も研究を続けておりますので、それらをまとめて報告いたします。脳波測定システムは <https://nouhasokutei.jp/> をご覧ください。レンタルもありますので気楽に計測できますから是非計測してみてください。

サイ現象は現代科学でそのメカニズムが解明できていませんので未科学的なこととして好奇の対象だけで片づけられています。しかし、日常生活で‘気がする、気になる、気を入れる’などと科学技術では定義のない‘気’という概念を活用しています。

その一方で、気功に注目しそのメカニズムを科学的に解明しようとする動きは以前からもあります。現象の再現性や客観性にこだわるのでなかなか成功しないように思われます。

例えば気象現象に見るように流体力学の枠内ではありますが、ファジーの典型ですから従来の手法では天の‘気’を掴むことが出来ずに異常気象に戸惑います。

そこで‘気’と相互作用の強い細胞集団に注目します。37兆個もある細胞の集団の人間です。‘気づき’の鋭い人や鈍い人もいますが程度の差こそあれ細胞は必ず反応しているはずですから、その反応を神経細胞の中枢がコントロールして脳波で観ることができます。

何が目的かは分かりませんがロシアトムスク

に宇宙監視センターがあり毎日観測結果を報告 http://sosrff.tsu.ru/?page_id=9

しています。図1はここからのデータです。

表1の空間の電磁波の欄を見てください。図1に示すヴァンアレン帯からの4つの電磁波そのもので自然と同化するリズムです。脳波が母親の胎内で発生するメカニズムが分かっていますがおそらくこの電磁波が起因ではないでしょうか。

名称	周波数	特徴	空間の電磁波
1 ベータ波	14~29 Hz	緊張や不安、いらいらのときの大脳の活動 状態を反映する波形	F4 25.4Hz F3 19.8Hz
2 アルファ波	12~14 Hz	緊張した意識集中状態で、あまりゆとりがないときの波形	F2 13.6Hz
ミッドα	9~12 Hz	リラックスした状態で意識が集中しており、頭が冴えている	
スロ-α	7~9 Hz	休息する方向に集中し、意識が低下している	F1 7.8Hz
3 シータ波	4~7 Hz	浅い睡眠で、意識が動かない	
4 デルタ波	0.4~4 Hz	深い睡眠であらわれ、無意識状態	

表1 脳波の周波数と特徴

宇宙監視システム http://sosrff.tsu.ru/?page_id=9

周波数



図1 ロシア宇宙監視センターでの実測